

学校だより

あいかわ なかはら



令和5年 12月4日(月)
愛川町立愛川中原中学校
愛川町角田210
Tel 046 (286) 2710
発行責任者 中村 慎輔

生徒の成長を感じることでできた2学期でした

校長 中村 慎輔

2学期は、紫陽祭、3年修学旅行、2年職場体験、1年校外学習などの大きな行事があり、また、新型コロナウイルスによる様々な制限も解除されたということで、コロナ前の状態ですべてのカリキュラムを行うことができました。「4年ぶり」という表現が世の中的にも使われていましたが、本校でも同様でした。そして、これらの行事を通してこの2学期の子どもたちの成長を見ることができました。

生徒には、日々の授業やこれらの学校行事を通じて「自己肯定感」の高い人間になってもらいたいと思っています。

「自己肯定感」とは、「自分が自分であることに満足し、価値ある存在として自分自身を受け入れられること」です。自分の良いと感じるところも悪いと感じるところも含めて自分なんだと自分自身を認めてあげられるようになることです。

自己肯定感の高めるには、自分自身で考え、判断することが大切です。大人がすぐに指示をしたり、大人が判断をするのではなく、子ども自身が考えて、判断する場面を作ることが大切です。

自己肯定感の高い子は、物事を前向きに解釈することができ、気持ちが安定し、失敗を必要以上に恐れることなく積極的に行動できるようになります。

反対に自己肯定感の低い子は、ちょっとした出来事でも心が揺れ動き、気分が沈みやすくなり、行動が消極的になります。また、自己肯定感が低いと、他者からの承認欲求が強くなり、行動が依存的になります。依存的になると、何か困ったことがあったときに他人のせいにするようになってしまいます。

学校は子どもたちが接する最初の「社会」です。ほかの人と関わりながら、協働で様々なことを成し遂げていく場が学校です。「社会」には実にいろんな人がいて、様々な考え方を持っている人がいます。気が合う人もいれば合わない人もいます。それでも協力して色々な行事に取り組んでいきます。人間関係など、我々大人と同様にうまくいかないことも多々あります。悩んだり、苦しんだりすることもあると思いますが、それを乗り越えて自分自身で判断し行動して取り組んでくれました。もちろん子どものやることから、うまくいかないことがあったり、時間がかかってしまうこともありました。そのために、「安心して失敗できる環境づくり」を整えてあげることと、「成果以上にプロセスを重視」した声かけを我々教師は心がけてきました。教師が引っ張るのではなく、「フォロー」して生徒を支えてきました。そして、そんな経験を通して、彼らは成長してくれていると思います。

保護者や地域の皆さまには、様々な行事の支援だけでなく、子どもたちが安全に過ごせるよう、学校の環境整備にご協力いただきありがとうございました。おかげで、安全に学校生活を送ることができました。冬休みは、子どもたちが地域でお世話になることが多くなります。今後とも、安全面を含め多方面で地域の皆さまのお力添えを、よろしくお願い致します。

12月の予定

スクールカウンセラー来校日・・・7日(木)・14日(木)・19日(火)

5日(火) 専門委員会

15日(金) 18日(月)～20日(水) 三者面談

7日(木) 代表委員会

22日(金) 終業式

8日(金) PTA 実行委員会



1年生校外学習を終えて

<スローガン> 横浜について学び知識を増やそう！～We can make the best memories!～

11月9日（木）に1学年の校外学習が横浜にて行われました。天候にも恵まれ、山下公園からみなとみらい地区までの班別活動を全員無事にやり遂げることができました。生徒たちは、事前学習をふくめた「計画性」、当日の課題に取り組む「解決力」、そして自分たちで実行し思い出を作る「楽しむ力」を発揮してくれました。これからは、現地で見たり体験したりしたことを「横浜ガイドマップ」としてスライドにまとめる課題に取り組み、横浜での学びを形にしていきます。自分たちの手で行事を創るという貴重な経験を積んだ1学年の生徒のみなさん、進級に向けて今後の学校生活にも期待が高まっています。

1学年旅行的行事担当

2年生職場体験学習を終えて

11月9日（木）～10日（金）の2日間、愛川町の中学校が一斉に職場体験を行いました。職場体験の2日間は、学校と異なる環境に戸惑い、初めての仕事に緊張しながらも一生懸命に取り組む姿が見られました。それぞれが社会人としての姿勢やマナーの大切さ、働くことの大変さや尊さ、そして働くためにはどんな力が必要かなど、実際に働く側の立場になってみることで見えること、分かることがたくさんあったようです。体験後、生徒達が嬉しそうに報告してくれたその内容や表情から、充実した学習になったことが伝わってきました。お礼状を書く時間では、2日間を振り返り、心のコもった内容を書いていました。とても有意義な時間となったようです。職場体験で、学んだことをこれからの中学校生活にどう活かしていけるか考え、学びを深めていけるよう支援していきたいと思っています。

お忙しい中、受け入れてくださった地域の各事業所の方々、手厚いご指導を頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。また、保護者の皆様には、職場体験の準備や送迎など、多くのご協力をいただき、生徒達の活動を温かく見守ってくださりました。ありがとうございました。

2学年職場体験学習担当

生徒の声

<子育て支援センター>

子どもたちと一緒に遊んだり、本の読み聞かせをしたり様々な体験をしました。コミュニケーションやあいさつ、礼儀の大切さを改めて学ぶことができました。職場体験で学んだことを、これからの学校生活に生かしていきたいです。

<わんぱく自然農園たむそん>

ナスの収穫や草むしりなどの農作業や、芋の貯蔵庫づくりの穴掘りをしました。実際に大人がどのように働いているのを学びました。農作業はとても疲れましたが、とても楽しかったです。

家庭教育学級を終えて

10月24日（金）に家庭教育学級として、リアル脱出ゲーム「先生たちの失われた記憶」を実施しました。オープニングには愛川高校の和太鼓部の生徒に演奏をしてもらい、その迫力に圧倒されました。その後、クラスの班で校内を歩き回りながら謎解きをし、最後のキーワードを導き出せるように班員で協力しながら一生懸命にゴールを目指していました。多くの保護者にも参加していただき、生徒と一緒に謎解きをしている姿が見られました。最終的にすべての謎を解くことができた班は少なく、多くの班が謎を残したまま終わってしまいました。ですが、日常生活を送っている時以上に班員で協力しながら活動している姿が、コロナ前の学校の日常を思い出させてくれました。今の学校教育には、生徒・保護者・先生方みんなが一緒にできる活動が求められているように思います。また楽しめる行事が開催できるよう、生徒のみんなが日々の学校生活に一生懸命取り組むことを期待しています。

PTA 本部担当

